

地域ネットワークニュース

電話0299(93)0294

e-mail mail@kamisushakyo.com

http://www.kamisushakyo.com

第132回
勉強会

支援者のための支援とは

神栖ケアサポートセンター 管理者 土井真理さん

介護保険制度では、ケアマネジャーが利用者を主体として、今後の生活をより豊かに安心して暮らせることを目的にケアプラン（援助計画）を作成します。

ケアプランとは、介護サービスを受ける方が必要な援助サービスを適切に利用できるように、受けられるサービスの種類や内容などを定める計画です。心身の状況や、家庭・住宅等の生活環境を考慮して、どのようなサービスをどのくらい利用するかを決めることができます。

最適なサービスを提供するためには、お年寄りそれぞれのニーズの適切な把握と、保険・医療・福祉等さまざまなサービス提供機関との調整が必要となってきます。また、日々変化する利用者の思いや、生活環境、身体状況に柔軟に対応し、それらをケアプラン作成に反映していくことが求められます。

しかし、多くのケアマネジャーは、このケアプラン作成において「利用者にとって最善のプランだろうか」「もっと利用者の思いを反映できるのでは」と自問自答を繰り返しているのではないのでしょうか。

神栖ケアサポートセンターでは定期的に近隣のケアマネジャーが集まり、同じ立場で悩みを打ち明け、ケアマネジャーが抱えている課題の紐を解きながら質の向上に繋げている実践的な研修会を行っています。

そこで今回の勉強会では、先月に引き続き 神栖ケアサポートセンター管理者 土井真理さんから、ケアマネジャーなどの相談支援者が抱えている悩みや不安をどうしたら解消できるのか、『支援者のための支援』の重要性について話して頂きます。

ケアマネジャーに限らず、相談援助職の方たちにも得られるものが少なからずあるはずです。この機会にぜひご参加ください！



平成20年10月14日(火)午後7時より 神栖市保健・福祉会館 2階 研修室

第131回
勉強会報告

自分の支援を振り返ろう

～ケアマネの理想と現実～

神栖ケアサポートセンター管理者 土井真理さん

参加者
40名

ケアマネジャーなどの相談援助者は、自分の思いや考えに偏ることなく、相手の目線で物事を捉えなければなりません。そのために、これまでの支援を振り返り、自分自身の支援を見つめ直すことが大切です。

今回の勉強会では、自分自身が相談支援の中での関わり方を客観的に確認できるチェックシートを使って、「クライアントは誰なのか...意識していますか」「自分の価値観や社会常識に左右されていませんか」「相談する人がいますか」「自分の支援を信頼していますか」など47項目のチェックを参加者全員で実施し、対人援助の基礎を振り返りました。

このような機会を通じて、日常の関わりに照らし合わせてこれまでの支援を振り返り、明日からの支援を見直していくことが、対人援助職には常に求められていることを改めて確認することができました。

